

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2014年 第6週（2月3日～2月9日）

## ★お知らせ

### ○インフルエンザに注意して！

定点医療機関からの報告は前週から減少していますが、県全域では引き続き注意報値を超えています。迅速検査はインフルエンザA型95%、B型5%となっています。また、感染症情報収集システムでは学年・学級閉鎖が4施設報告されています。感染力が大変強いので今後も手洗い、うがい、及び咳エチケットの感染予防してください。

### ○感染性胃腸炎に注意して！

定点医療機関からの報告は前週から減少していますが、引き続き県全域で注意報値を超えています。ノロウイルスは感染力が大変強いので、学校や社会福祉施設など集団生活の場では特に注意してください。また、症状が消失した後も、1週間程度、長いときには1ヶ月程度患者の便の中にウイルスが排出される可能性があるため、2次感染には注意が必要です。感染を拡げないために、排便後、調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。消毒には、次亜塩素酸ナトリウムを使用するか、85℃以上で1分以上の加熱が必要です。病原体定点の検体からはノロウイルスが8例、サポウイルスが2例検出されています。

高知県ノロウイルス対策マニュアル ([URLhttp://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html](http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html))

厚生労働省ノロウイルスに関するQ&A (<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>)

## ★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↘	13.15	須崎では増加しているが、全体では減少している。県全域及び高知市、幡多、中央西で注意報値を超えている。
感染性胃腸炎	↘	10.70	中央東では増加しているが、全体では減少している。高知市、中央西では注意報値を超えている。
流行性耳下腺炎	→	1.43	高知市、中央東、須崎、中央西で増加している。
水痘	→	0.87	中央東で増加している。
RSウイルス感染症	→	0.73	安芸、中央西、幡多、中央東で増加している。

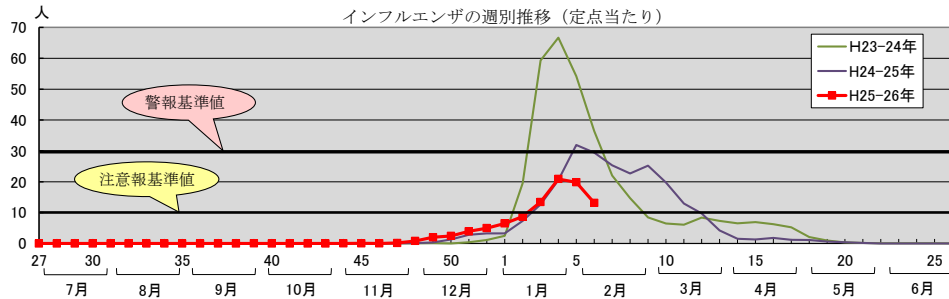
## ★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

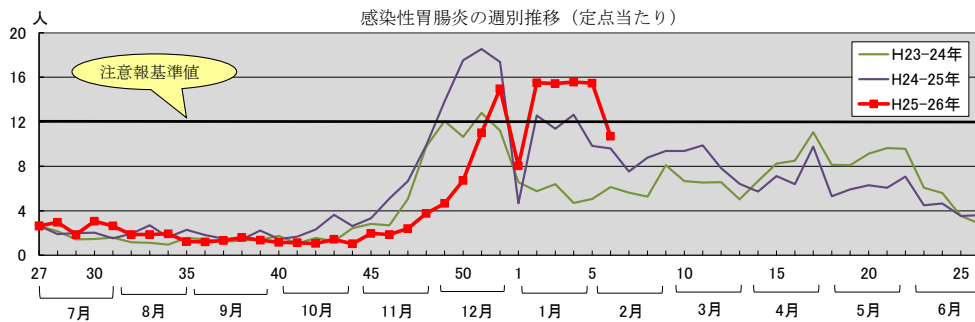
○インフルエンザ：13.15（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 13.15（前週：19.83）と減少していますが、引き続き注意報値を超えています。地域別にみると、須崎（6.50：前週 6.00）で増加し、高知市（19.56：前週 26.94）幡多（16.75：前週 23.00）中央西（13.20：前週 26.00）では注意報値を超えています。病原体定点の検体からは Influenza virus AH3 NT が 6 例 Influenza virus AH1pdm09 が 4 例検出されています。また、5 週に搬入された検体の分離培養では Influenza virus B/Yamagata が 3 例検出されています。



○感染性胃腸炎：10.70（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告は定点当たり 10.70（前週：15.47）と減少しています。地域別にみると、中央東（10.86：前週 8.00）で増加し、高知市（13.00：前週 23.27）中央西（12.00：15.33）では注意報値を超えています。病原体定点の検体からは Norovirus G II が 8 例、Sapovirus genogroup unknown が 2 例検出されています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
6	急性気管支炎	1	女	高知市	Human herpes virus 6
6	インフルエンザ	6	女	高知市	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	2	女	高知市	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	4	女	高知市	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	4	男	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	6	男	高知市	Influenza virus A H3 NT
6	インフルエンザ	2	男	高知市	Influenza virus A H3 NT
6	インフルエンザ	1	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
6	インフルエンザ	5	男	須崎	Influenza virus A H3 NT
6	インフルエンザ	3	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
6	インフルエンザ	58	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
6	感染性胃腸炎	1	男	高知市	Norovirus GII NT
6	感染性胃腸炎	1	女	須崎	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
6	感染性胃腸炎	6	男	須崎	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
6	感染性胃腸炎	11ヶ月	女	須崎	Norovirus GII NT
6	感染性胃腸炎	3	男	須崎	Norovirus GII NT
6	感染性胃腸炎	1	男	幡多	Norovirus GII NT
6	—	1	女	幡多	Norovirus GII NT
6	感染性胃腸炎	2	男	幡多	Norovirus GII NT

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
5	喘息性気管支炎	1	男	中央西	Human metapneumovirus
5	インフルエンザ	13	男	高知市	Influenza virus B/Yamagata※
5	インフルエンザ	3	女	須崎	Influenza virus B/Yamagata※
5	インフルエンザ	2	男	須崎	Influenza virus B/Yamagata※
5	不明熱	13	女	安芸	Rhinovirus

※5週に受付し、PCR検査で検出したものを分離培養した結果です。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	4	14	70歳代(男)	安 芸
				50、60歳代(男)	高知市
				40歳代(女)	幡 多

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	あけぼの小児科クリニック	ムンプス成人例1例(40歳代: IgM上昇) RSウイルス感染症5例(0歳2人、1、2、3歳) アデノウイルス咽頭炎1例(1歳) 感染性胃腸炎多数(35例)
	早明浦病院小児科	ノロウイルス感染性胃腸炎2例(4歳女、14歳男) マイコプラズマ肺炎2例(9、10歳男)
	野市中央病院小児科	インフルエンザA型4例 (11、12歳男、10歳女: ワクチン未接種 12歳男: ワクチン接種済み) ノロウイルス(+)1例(6歳男)
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス(+)2例(0、1歳女) マイコプラズマ肺炎1例(11歳男) 病原体大腸菌O-11例(22歳男) 病原体大腸菌O-6+カンピロバクター1例(11歳男)
	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症2例(1ヶ月、8ヶ月女) ノロウイルス(+)1例(1ヶ月男) アデノウイルス(+)2例(1歳男2人)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザA型27例、B型3例
	細木病院小児科	ノロウイルス(+)3例(2、5歳男、2歳女) ロタウイルス(+)1例(1歳男)
	国立病院機構高知病院小児科	アデノウイルス感染症1例(1歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	ノロウイルス感染症1例(1歳男)
須 崎	もりはた小児科	アデノウイルス扁桃炎2例(1歳男、2歳女) マイコプラズマ肺炎1例 インフルエンザ12例(A型11例: 内1例AH1N1、B型1例)
幡 多	さたけ小児科	ノロウイルス感染症3例(1歳男、1、2歳女)
	幡多けんみん病院小児科	ノロウイルス(+)1例(10ヶ月女)

★全国情報

第4週(1/20~1/26)

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 結核315例
- 3類感染症: 細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症8例、腸チフス1例
- 4類感染症: E型肝炎4例、A型肝炎2例、デング熱3例、レジオネラ症16例
- 5類感染症: アメーバ赤痢12例、ウイルス性肝炎3例、急性脳炎10例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群16例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症15例、梅毒13例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん9例、麻しん18例
- 報告遅れ: 腸チフス1例、E型肝炎2例、急性脳炎5例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、先天性風しん症候群1例

## ◆麻しん2013年第48週～2014年第4週の輸入例の増加

麻しんの2014年第1～4週（2013年12月30日～2014年1月26日に診断されたもの）の累積報告数は46例であり、昨年同時期より大きく増加している。2014年の麻しんウイルスの遺伝子型は16例で報告されている（2014年2月3日現在）。

2013年第48週～2014年第4週（2013年11月25日～2014年1月26日）に診断された麻しん（2014年2月3日現在）は61例であり、前年同時期の26例よりも倍増した。性別では男性32例、女性29例であり、平均年齢は17.0歳（中央値15歳、5カ月～60歳）であった。遺伝子型別が判明したものが24例含まれ、B3型22例、D8型1例、D9型1例であった。

この間の都道府県別の報告数は京都府21例、愛知県8例、神奈川県7例、東京都5例、岡山県3例、埼玉県、千葉県、兵庫県、広島県、福岡県各2例、新潟県、静岡県、三重県、滋賀県、大阪府、山口県、宮崎県各1例であった。感染地域は国内が37例（61%）であり、国外が24例（39%：フィリピン17例、スリランカ2例、インドネシア2例、グアム1例、インド1例、オーストラリア1例）と報告され、フィリピンが最多であった。ワクチン接種歴別報告数では、61例中接種歴のない、または不明の症例が52例（85%）であった。

2013年末から2014年初頭の発生動向で特記すべきこととして、輸入例の増加が続いていることが挙げられる。感染地として海外が推定されていた症例の、2013年第1～47週の週当たり平均報告数は0.32例であったが、2013年第48週～2014年第4週では2.7例に増加した。

麻しんは、年齢にかかわらず命に関わる重篤な感染症である。また、特異的な治療法はないものの、予防接種で予防可能な感染症である。我が国は2012年までの麻しん排除を国としての目標に掲げ、2007～2008年頃の10代を中心とする患者発生の状況から約97%の減少を達成し、2015年の麻しん排除認定の取得を次の目標としている。今後も輸入例の動向を注意深く監視すると共に、輸入例からの国内二次感染等に対する警戒が重要である。そのためには、「一例出たらすぐ対応」の原則に則った迅速な疫学調査の実施が鍵であるとともに、感受性者、特に定期接種（1歳、小学校就学前1年間）対象者における麻しん含有ワクチン（原則として麻しん風しん混合ワクチン）接種の徹底が必要である。

さらに、海外渡航歴のある、あるいは関連している症例が増加しており、感染性がある期間に航空機に搭乗していたと考えられた症例も複数報告されている。医療機関においては、発熱・発疹者に対する聞き取りにおいては、渡航歴や麻しん様患者との接触歴、予防接種歴などの確認を慎重に行うことが望まれる。

海外への渡航者は、自分のワクチン接種歴を確認の上、必要なワクチン接種を行い、持ち込まないことが大切である。また、麻しんの疑われる体調不良があった場合は、二次感染防止のため、麻しんの疑いがあることを予め医療機関に伝えた上で受診することが望ましい。

（国立感染症研究所 感染症疫学センターより）

## ★麻しん患者の増加について

今般、特にフィリピンで麻しんが疑われる患者報告が増加しており、フィリピンでの感染が疑われる症例の届出が本年第1週から第4週までに国内で11例見られています。

麻しんの定期の予防接種対象者に対し、積極的な勧奨をお願いします。また、海外の麻しんの流行がみられる地域への渡航者に対する予防接種等の情報提供及び注意喚起、海外渡航歴、特にフィリピンへの渡航歴がある発熱者等に対して麻しんの発症を念頭においた注意深い対応をする等、麻しんに対する一層の対策の実施をお願いします。

（参考資料）

### 1.2014年1月30日更新 東アジアと東南アジアにおける麻しんの流行状況について

厚生労働省検疫所 FORTH <http://www.forth.go.jp/topics/2014/01301635.html>

### 2.ウイルス分離・検出状況 2013～2014年（2014年2月3日現在報告数）

国立感染症研究所感染症疫学センター

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles/2084-infectious-diseases/disease-based/ma/measles/idsc/iasr-measles/4349-iasr-measles-140203.html>

### 3.感染症発生動向調査 2014年第4週：通巻第16巻第4号

国立感染症研究所感染症疫学センター

<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2014/idwr2014-04.pdf>

## ★中国からの帰高者についてインフルエンザ様症状を診断された際の情報提供について

昨年の3月以降、中国や台湾・香港等で感染者・死亡者が報告されましたH7N9型の鳥インフルエンザの発生については、昨年4月をピークに一時終息していましたが、年末から現在にかけ、患者数が再び増加しており、国内での発生も懸念される状況となっています。

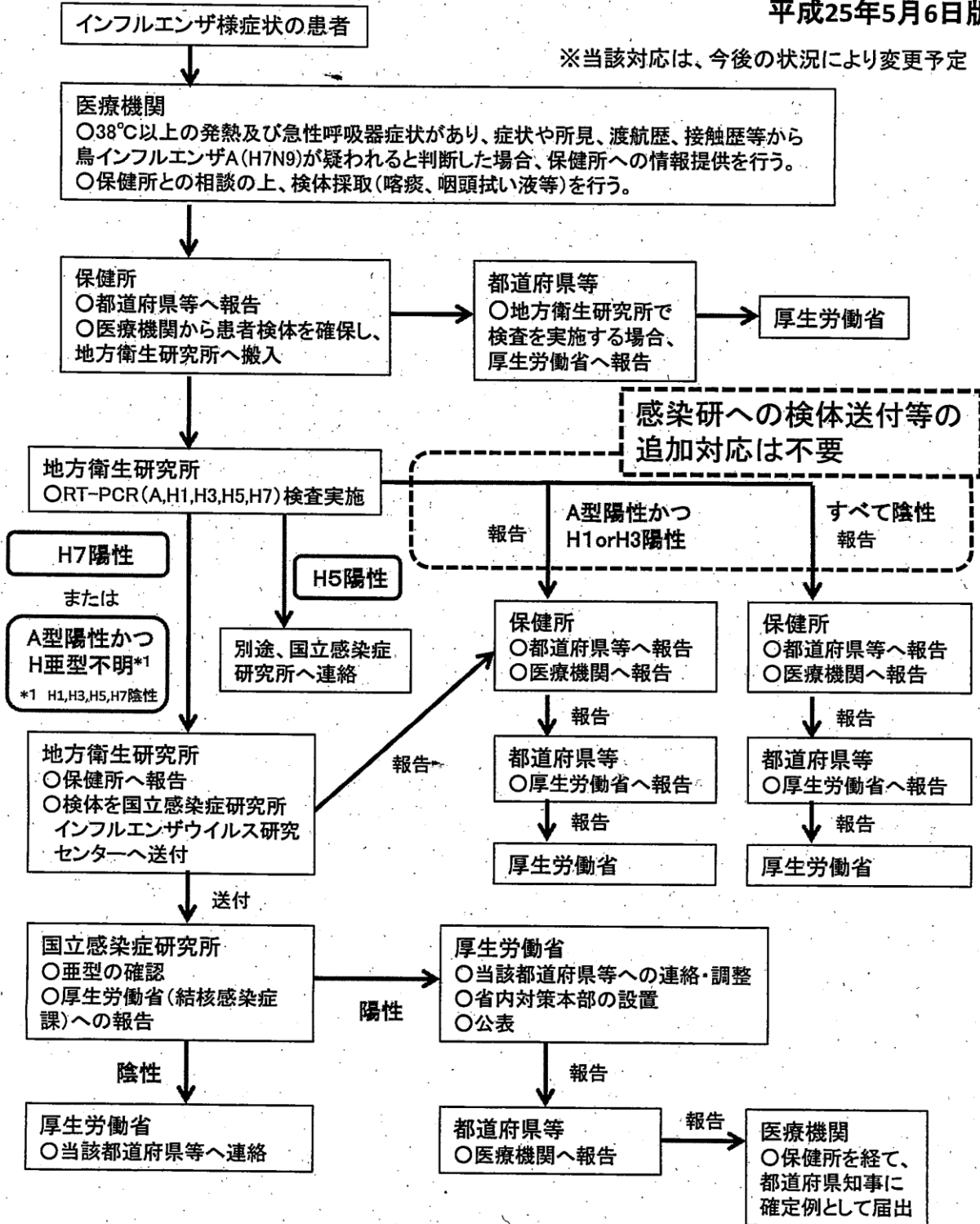
このH7N9型の鳥インフルエンザについては、平成25年5月6日付けで感染症法に基づく指定感染症に定められ、医師が患者と診断した場合は、直ちに最寄りの県福祉保健所・高知市保健所まで届け出ることとなっておりますが、診断を確定するための検査は、現在、県衛生研究所及び国立感染症研究所でのみ実施している状況となっています。

そのため、中国や台湾・香港から帰国した方で、インフルエンザ様の症状により、受診された方がおられましたら、まずは最寄りの県福祉保健所・高知市保健所までご連絡をいただきますようお願いいたします。

# 鳥インフルエンザA(H7N9)疑い患者が発生した場合の標準的対応フロー(※)

平成25年5月6日版

※当該対応は、今後の状況により変更予定





高知県感染症情報(58定点医療機関)

第6週 平成26年2月3日(月)～平成26年2月9日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第6週					計	前週	全国(5週)	高知県(6週未累計) H25/12/30～H26/2/9	全国(5週未累計) H25/12/30～H26/2/2	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎						幡多
インフルエンザ	インフルエンザ		12	80	313	66	26	134	631 ( 13.15)	952 ( 19.83)	170,403 ( 34.44)	3,961 ( 82.52)	388,991 ( 79.81)
小児科	咽頭結核熱				4			1	5 ( 0.17)	3 ( 0.10)	1,347 ( 0.43)	29 ( 0.97)	6,156 ( 1.99)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	3	9	2			1	16 ( 0.53)	7 ( 0.23)	6,792 ( 2.15)	86 ( 2.87)	25,757 ( 8.31)
	感染性胃腸炎	18	76	143	36	11		37	321 ( 10.70)	464 ( 15.47)	32,943 ( 10.44)	2,421 ( 80.70)	150,573 ( 48.56)
	水痘	2	5	13	2	2		2	26 ( 0.87)	29 ( 0.97)	2,959 ( 0.94)	207 ( 6.90)	21,485 ( 6.93)
	手足口病			1					1 ( 0.03)	( )	381 ( 0.12)	4 ( 0.13)	1,638 ( 0.53)
	伝染性紅斑			2					2 ( 0.07)	( )	413 ( 0.13)	5 ( 0.17)	1,742 ( 0.56)
	突発性発疹	1		2				1	6 ( 0.20)	12 ( 0.40)	1,414 ( 0.45)	56 ( 1.87)	6,210 ( 2.00)
	百日咳								( )	1 ( 0.03)	27 ( 0.01)	1 ( 0.03)	117 ( 0.04)
	ヘルパンギーナ								( )	( )	42 ( 0.01)	1 ( 0.03)	247 ( 0.08)
	流行性耳下腺炎	1	10	25	2	3		2	43 ( 1.43)	40 ( 1.33)	742 ( 0.24)	231 ( 7.70)	3,376 ( 1.09)
RSウイルス感染症	5	5	5	3			4	22 ( 0.73)	21 ( 0.70)	1,860 ( 0.59)	211 ( 7.03)	10,232 ( 3.30)	
眼科	急性出血性結核炎								( )	( )	8 ( 0.01)	( )	39 ( 0.06)
	流行性角結核炎								( )	( )	400 ( 0.59)	4 ( 1.33)	1,889 ( 2.82)
基幹	細菌性髄膜炎								( )	1 ( 0.13)	7 ( 0.01)	1 ( 0.13)	40 ( 0.08)
	無菌性髄膜炎								( )	( )	19 ( 0.04)	2 ( 0.25)	74 ( 0.16)
	マイコプラズマ肺炎			1					1 ( 0.13)	2 ( 0.25)	110 ( 0.23)	14 ( 1.75)	493 ( 1.05)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								( )	( )	11 ( 0.02)	2 ( 0.25)	40 ( 0.08)
	感染性胃腸炎								( )	3 ( 0.38)	56 ( 0.12)	9 ( 1.13)	237 ( 0.50)
計 (小児科定点当たり人数)		40 ( 17.00)	179 ( 21.41)	518 ( 38.09)	111 ( 28.21)	44 ( 15.50)	182 ( 26.35)	1,074 ( 27.88)			219,934	7,245 ( 190.92)	619,336
前週 (小児科定点当たり人数)		74 ( 30.00)	230 ( 24.52)	756 ( 56.10)	183 ( 43.66)	48 ( 18.00)	244 ( 35.00)		1,532 ( 39.06)				

注 ( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第6週					計	前週	全国(5週)	高知県(6週未累計) H25/12/30～H26/2/9	全国(5週未累計) H25/12/30～H26/2/2	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎						幡多
インフルエンザ	インフルエンザ		3.00	7.27	19.56	13.20	6.50	16.75	13.15	19.83	34.44	82.52	79.81
小児科	咽頭結核熱				0.36				0.17	0.10	0.43	0.97	1.99
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.43	0.82	0.67			0.20	0.53	0.23	2.15	2.87	8.31
	感染性胃腸炎	9.00	10.86	13.00	12.00	5.50		7.40	10.70	15.47	10.44	80.70	48.56
	水痘	1.00	0.71	1.18	0.67	1.00		0.40	0.87	0.97	0.94	6.90	6.93
	手足口病			0.09					0.03		0.12	0.13	0.53
	伝染性紅斑			0.18					0.07		0.13	0.17	0.56
	突発性発疹	0.50		0.18				0.40	0.20	0.40	0.45	1.87	2.00
	百日咳									0.03	0.01	0.03	0.04
	ヘルパンギーナ										0.01	0.03	0.08
	流行性耳下腺炎	0.50	1.43	2.27	0.67	1.50		0.40	1.43	1.33	0.24	7.70	1.09
RSウイルス感染症	2.50	0.71	0.45	1.00			0.80	0.73	0.70	0.59	7.03	3.30	
眼科	急性出血性結核炎										0.01		0.06
	流行性角結核炎										0.59	1.33	2.82
基幹	細菌性髄膜炎									0.13	0.01	0.13	0.08
	無菌性髄膜炎										0.04	0.25	0.16
	マイコプラズマ肺炎			0.20					0.13	0.25	0.23	1.75	1.05
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)										0.02	0.25	0.08
	感染性胃腸炎									0.38	0.12	1.13	0.50
計 (小児科定点当たり人数)		17.00	21.41	38.09	28.21	15.50	26.35	27.88			190.92		
前週 (小児科定点当たり人数)		30.00	24.52	56.10	43.66	18.00	35.00		39.06				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1(保健衛生総合庁舎2階)

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869